

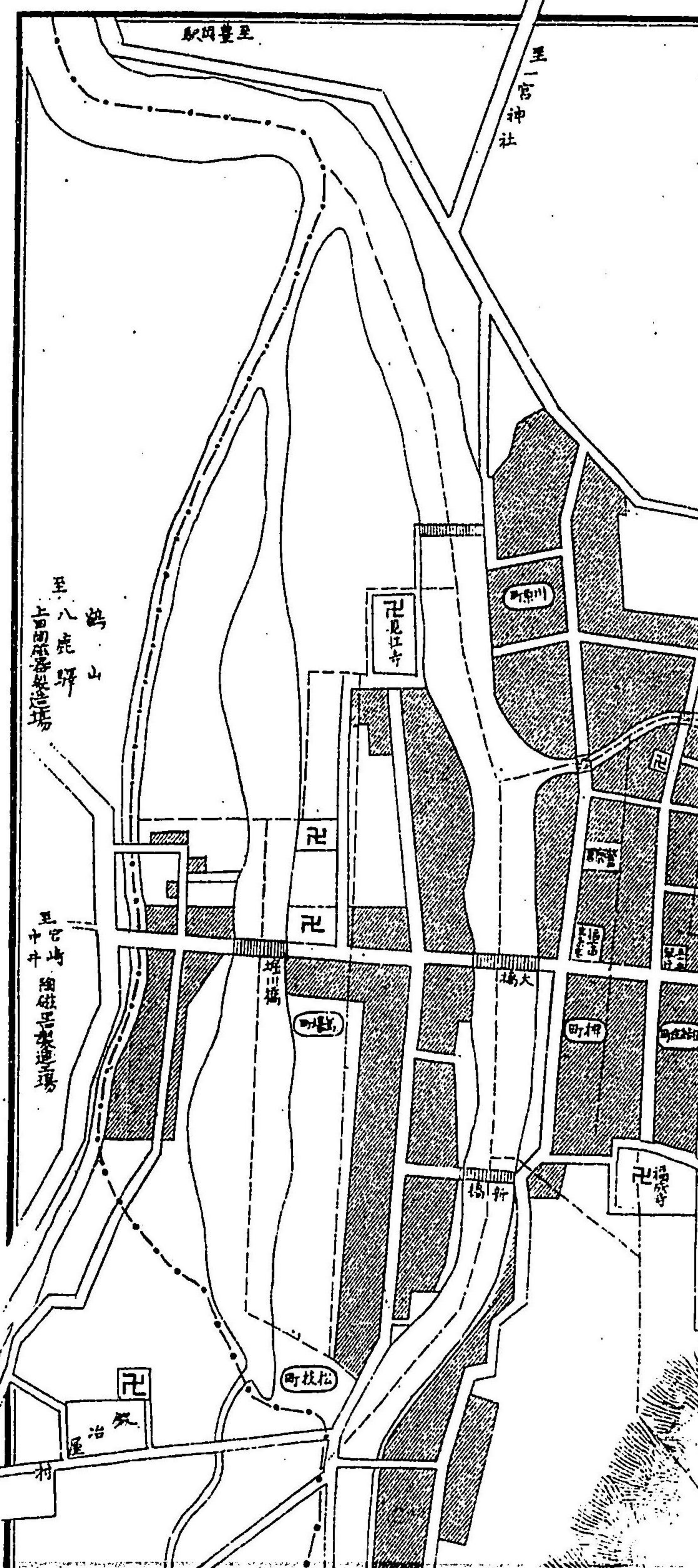
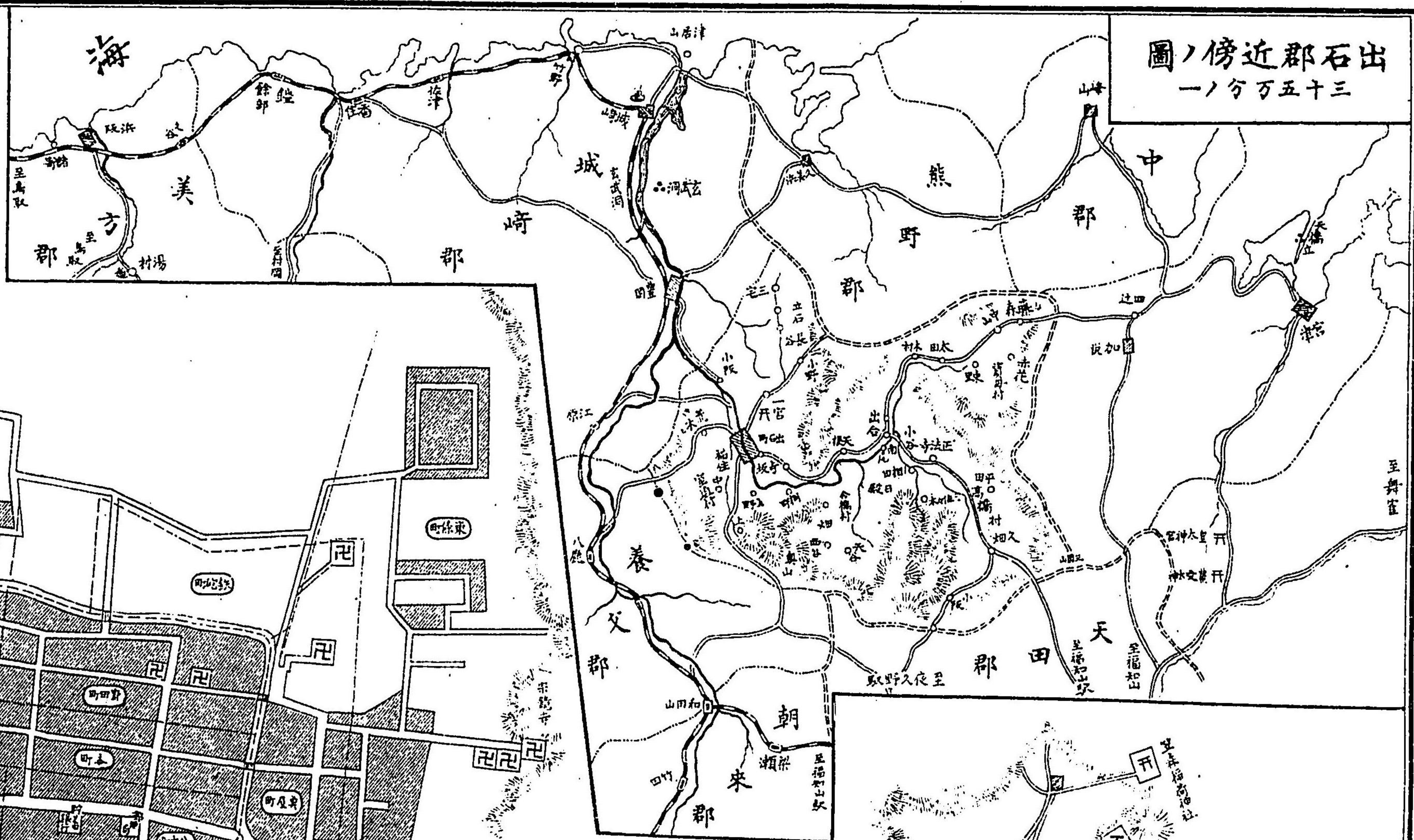
出石名所舊跡略記

359  
79

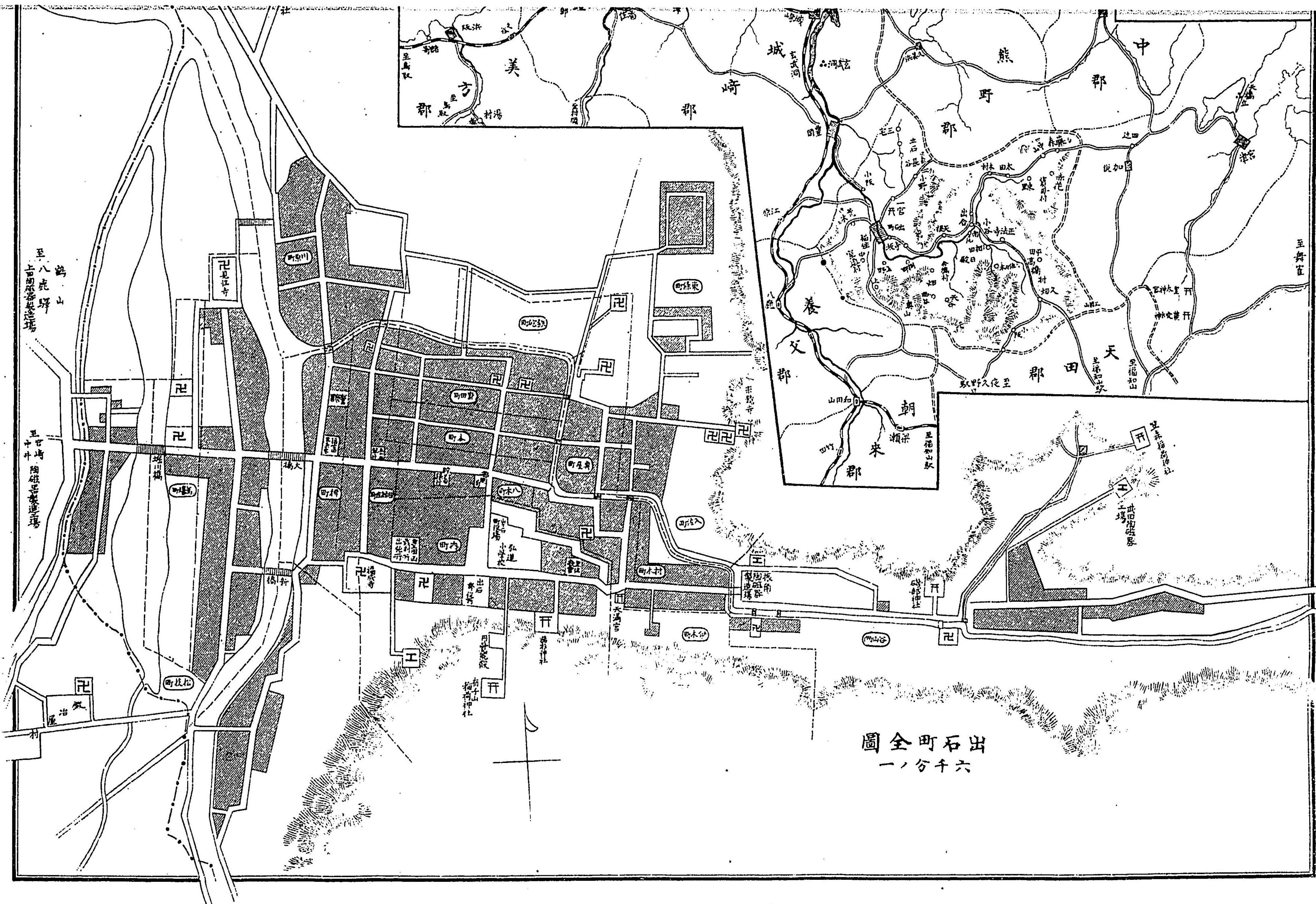
蘭亭  
圖



圖ノ傍近郡石出  
一ノ分万五十三

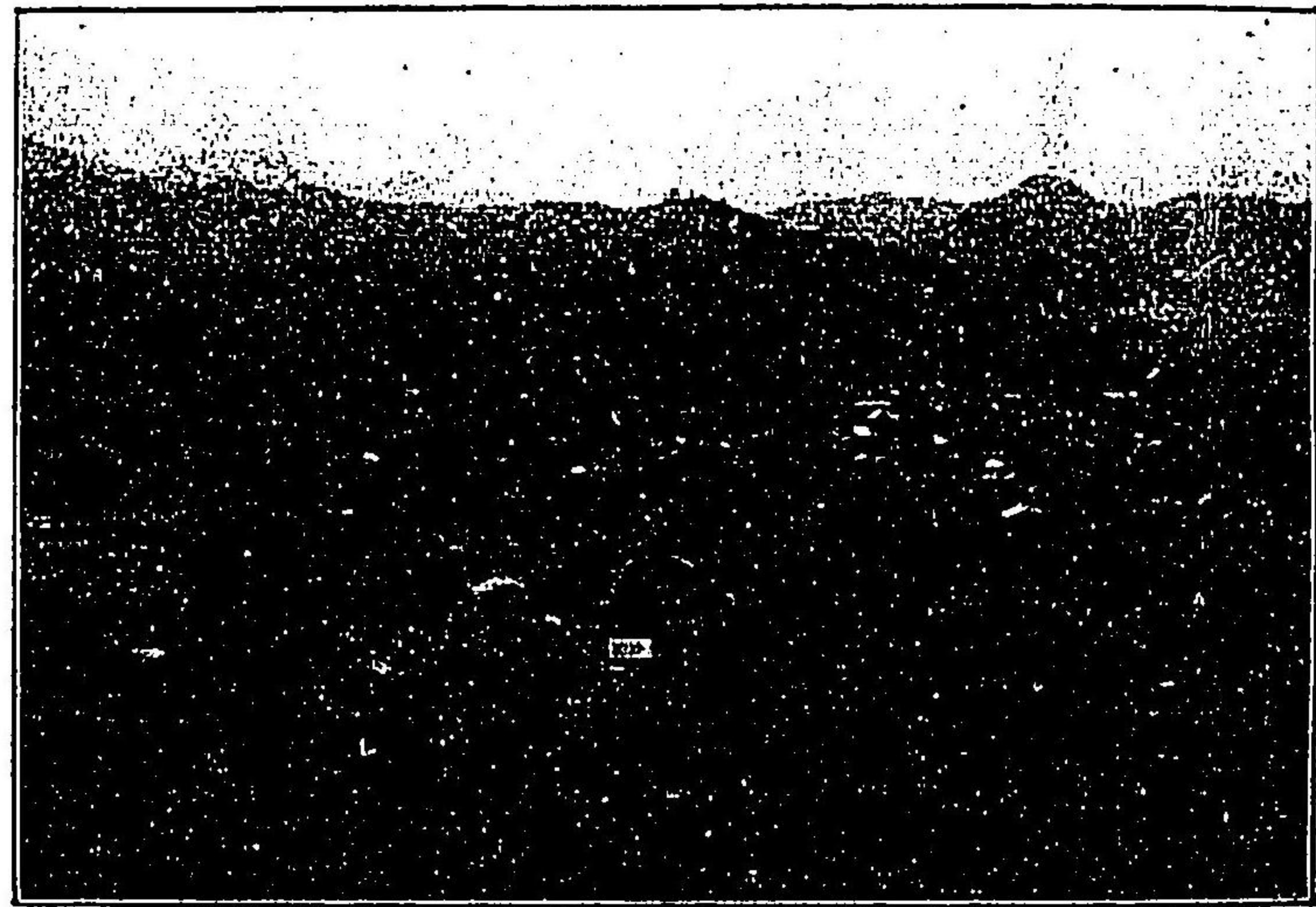


圖全町石出  
一ノ分千六

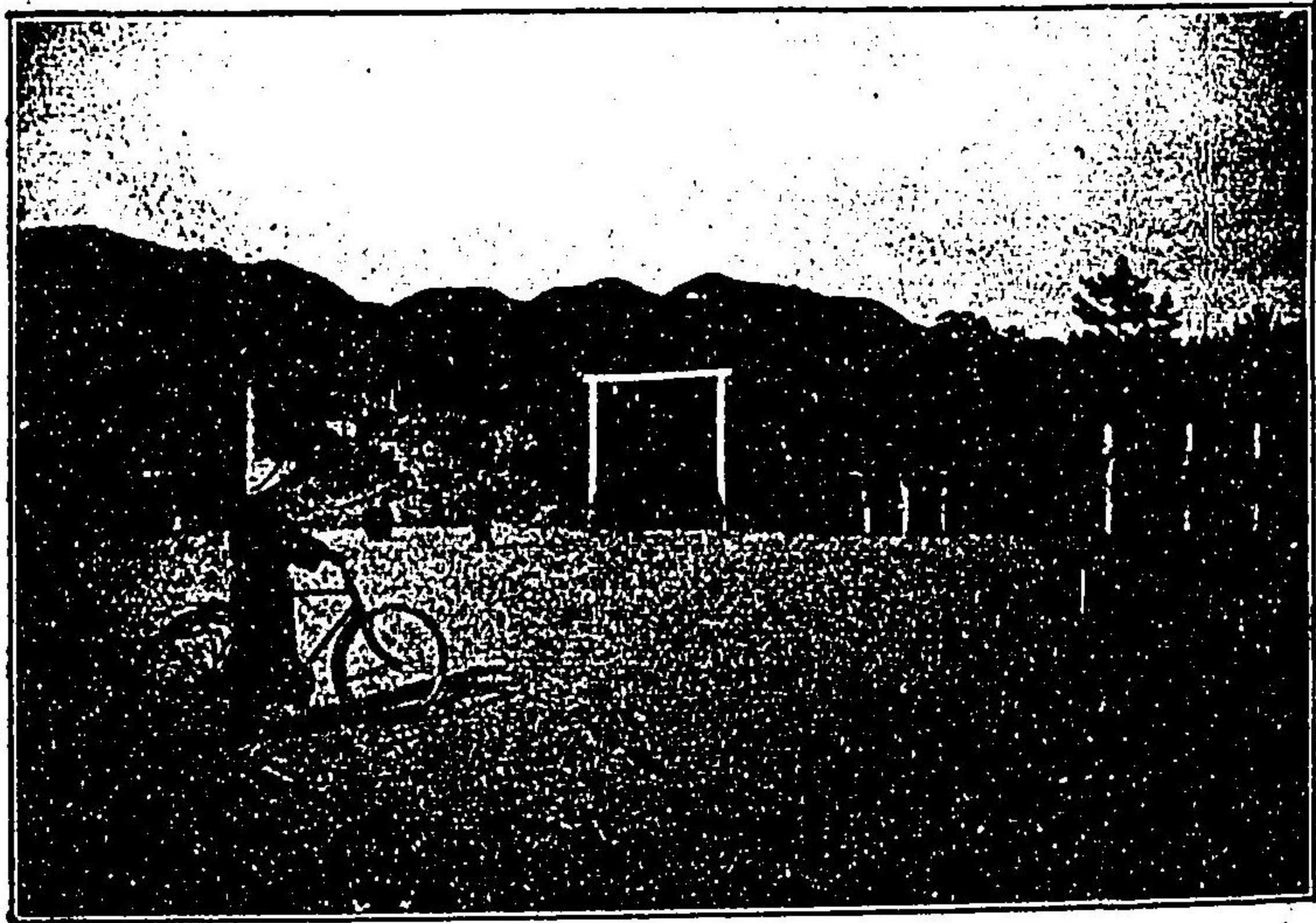


出石町全圖  
一ノ分千六

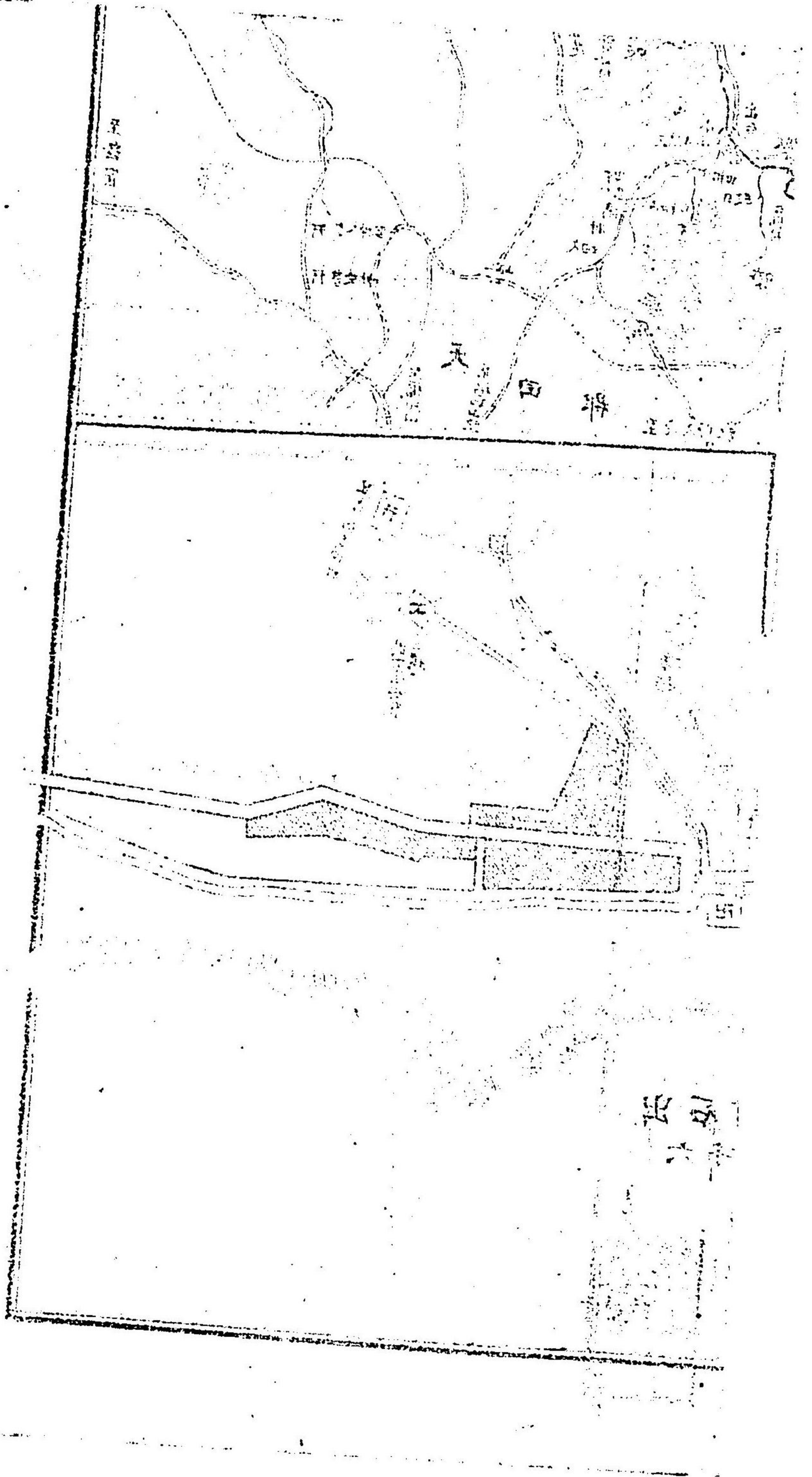
339-79

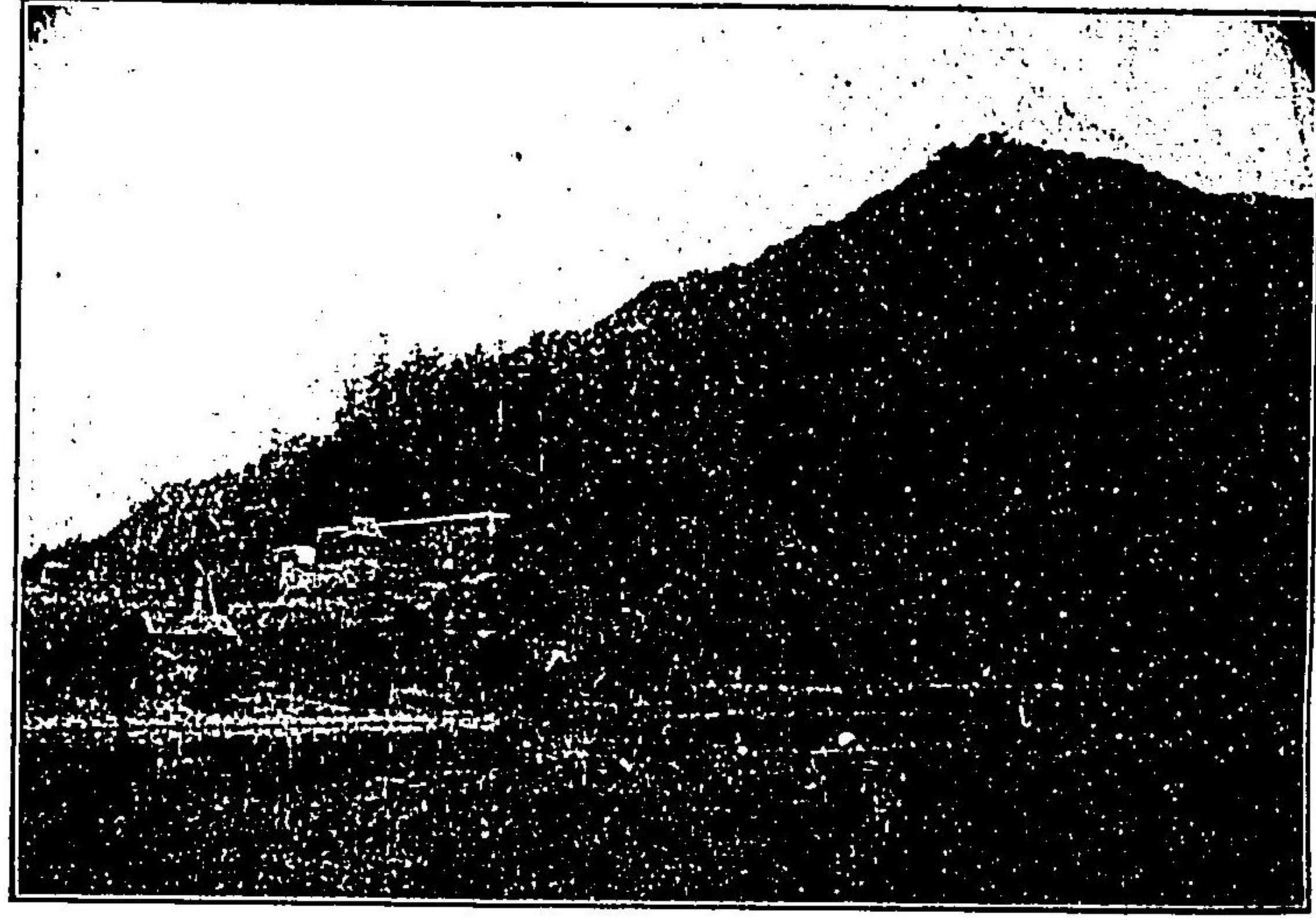


出石町之全景

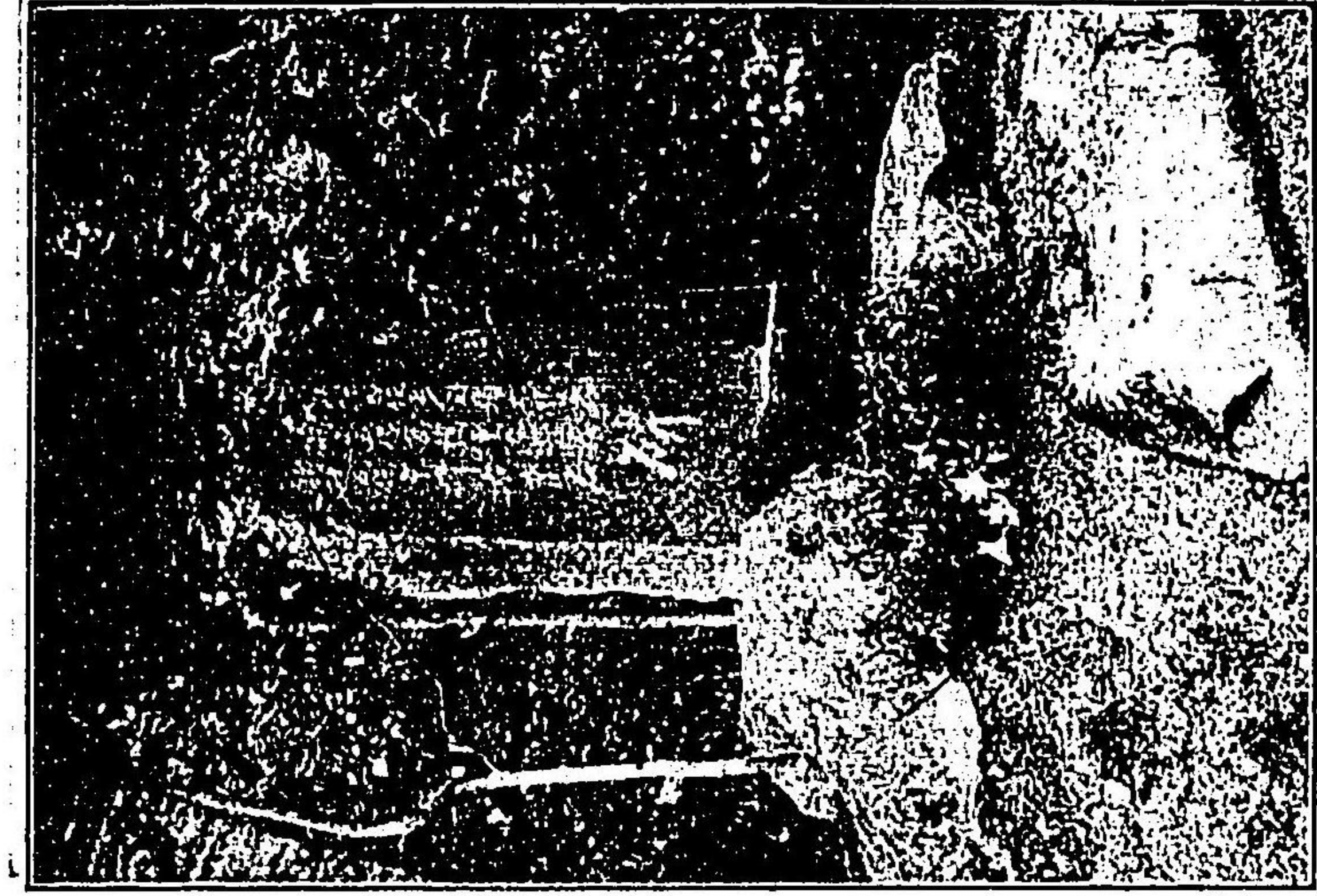


入佐山之遠望





望遠之山有子



勤王家之碑



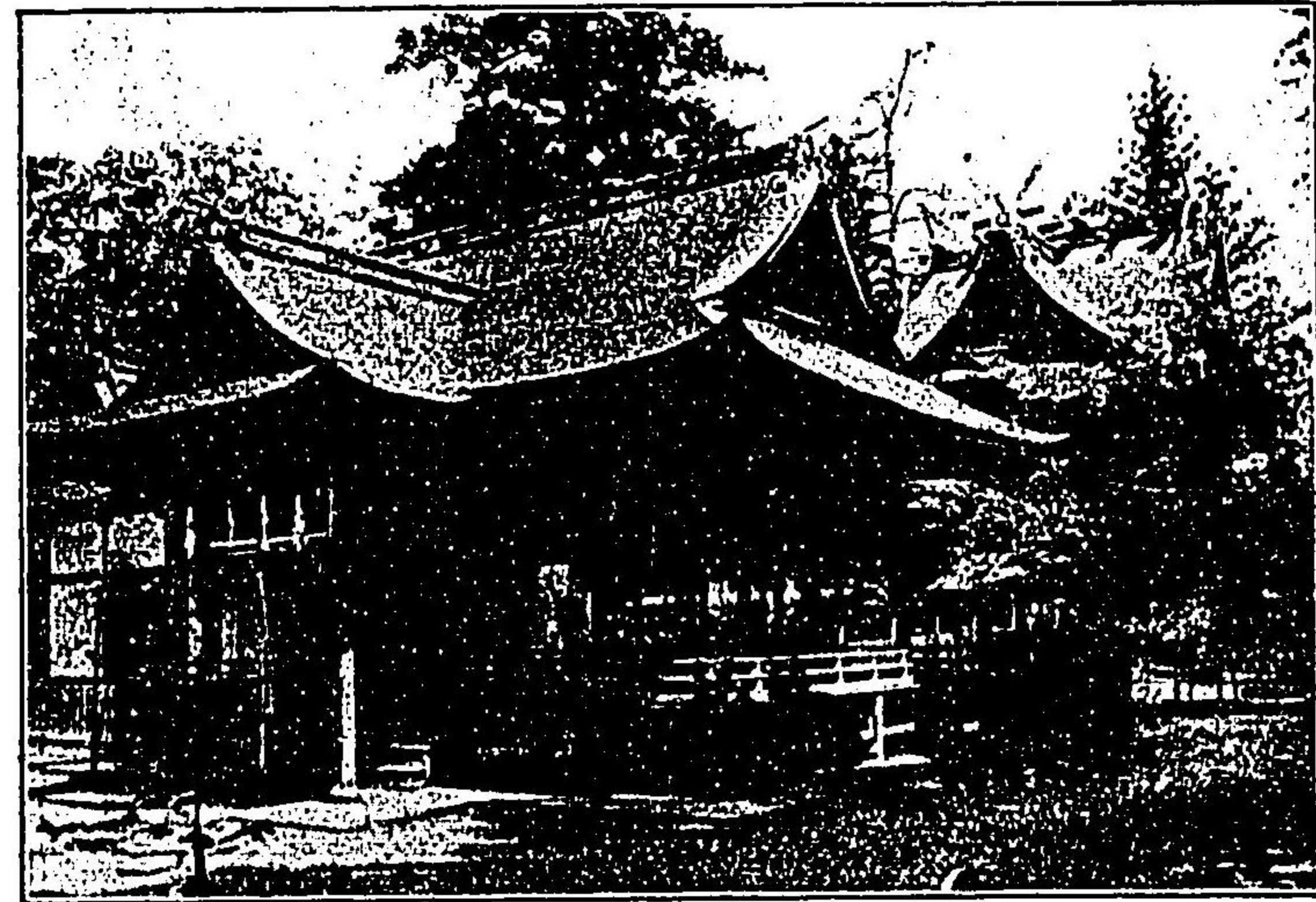
仙石權兵衛秀久公祠堂四院



甚兵衛松



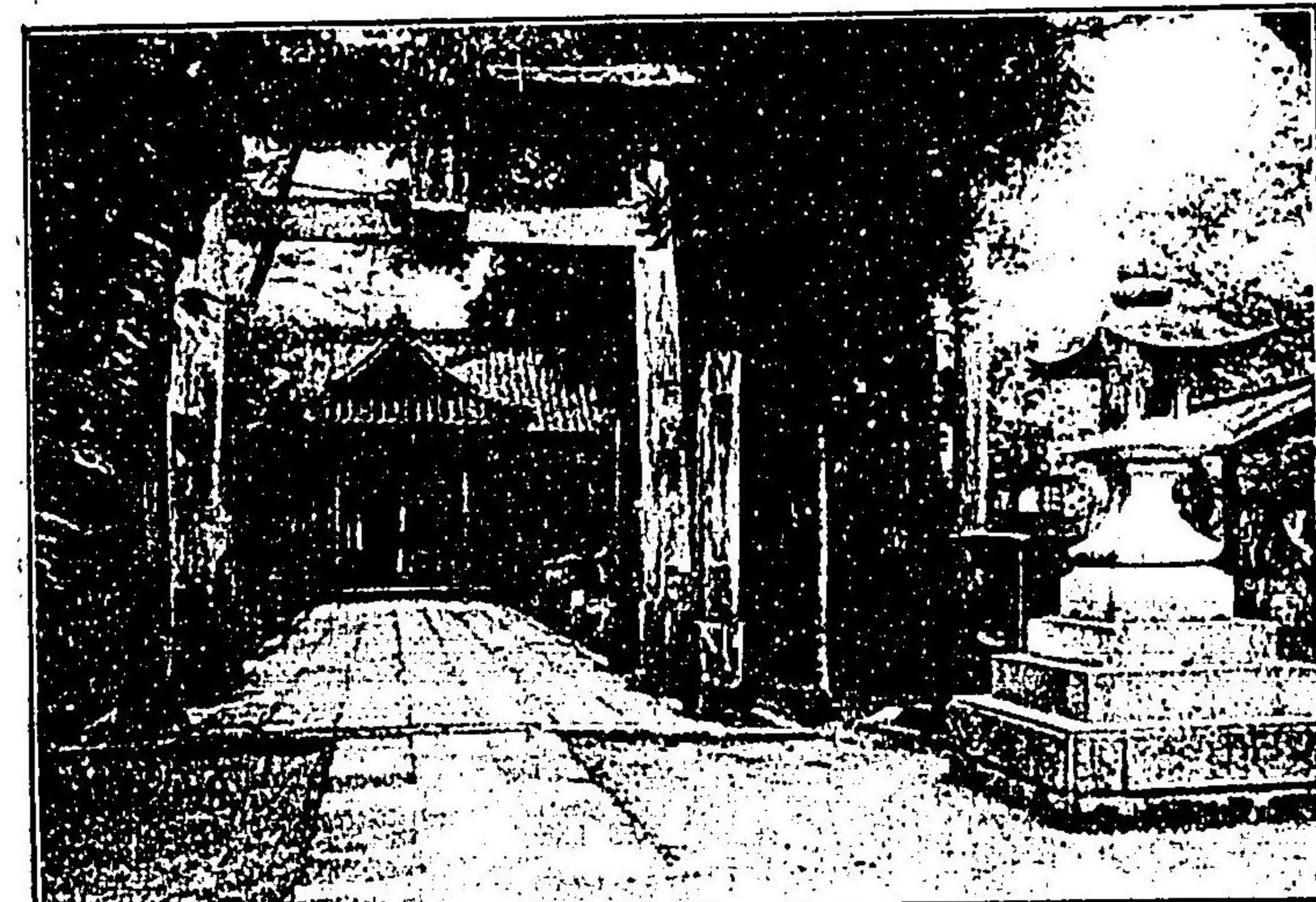
郡役所附近之景



國幣中社出石神社



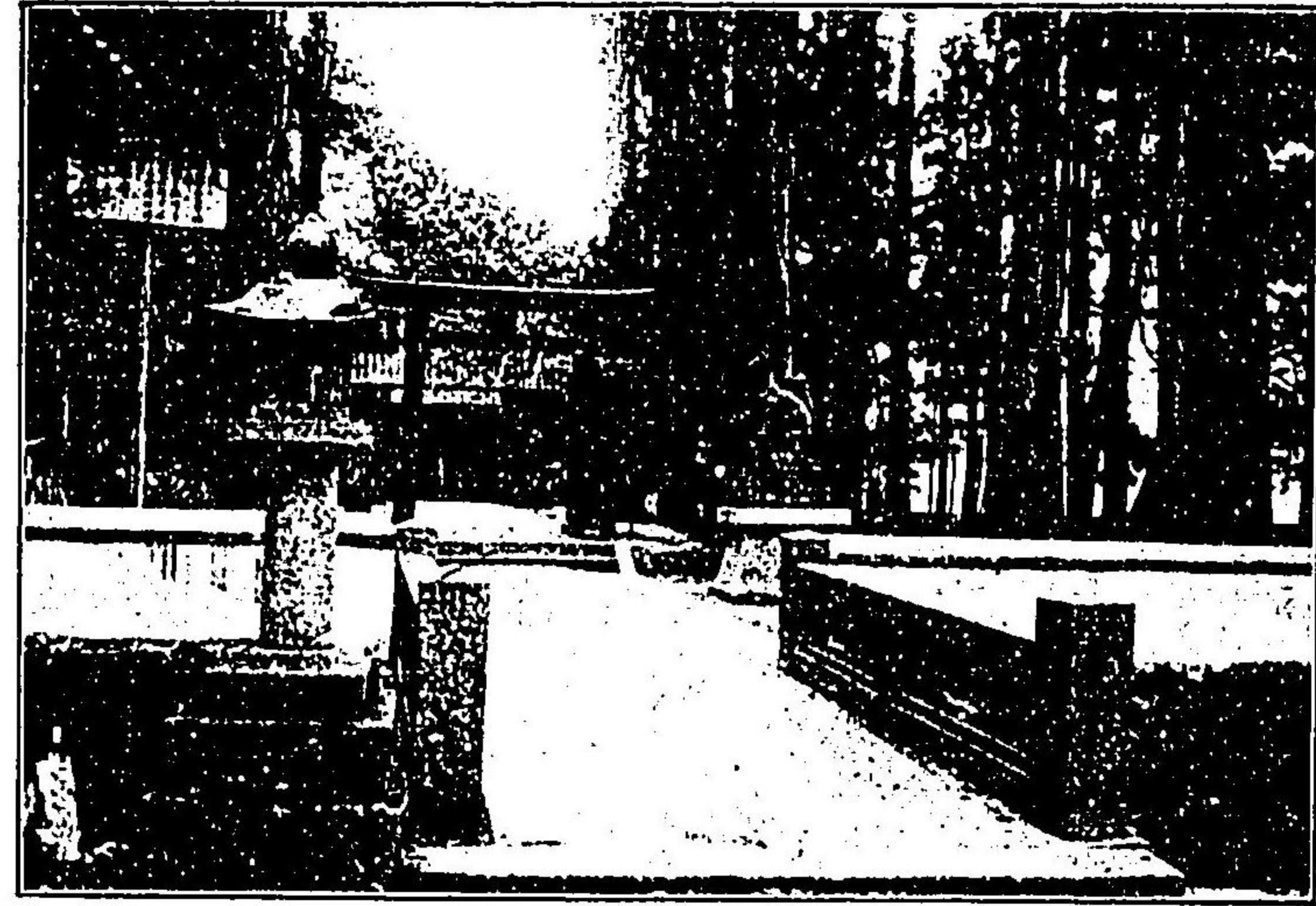
出石大橋附近之景



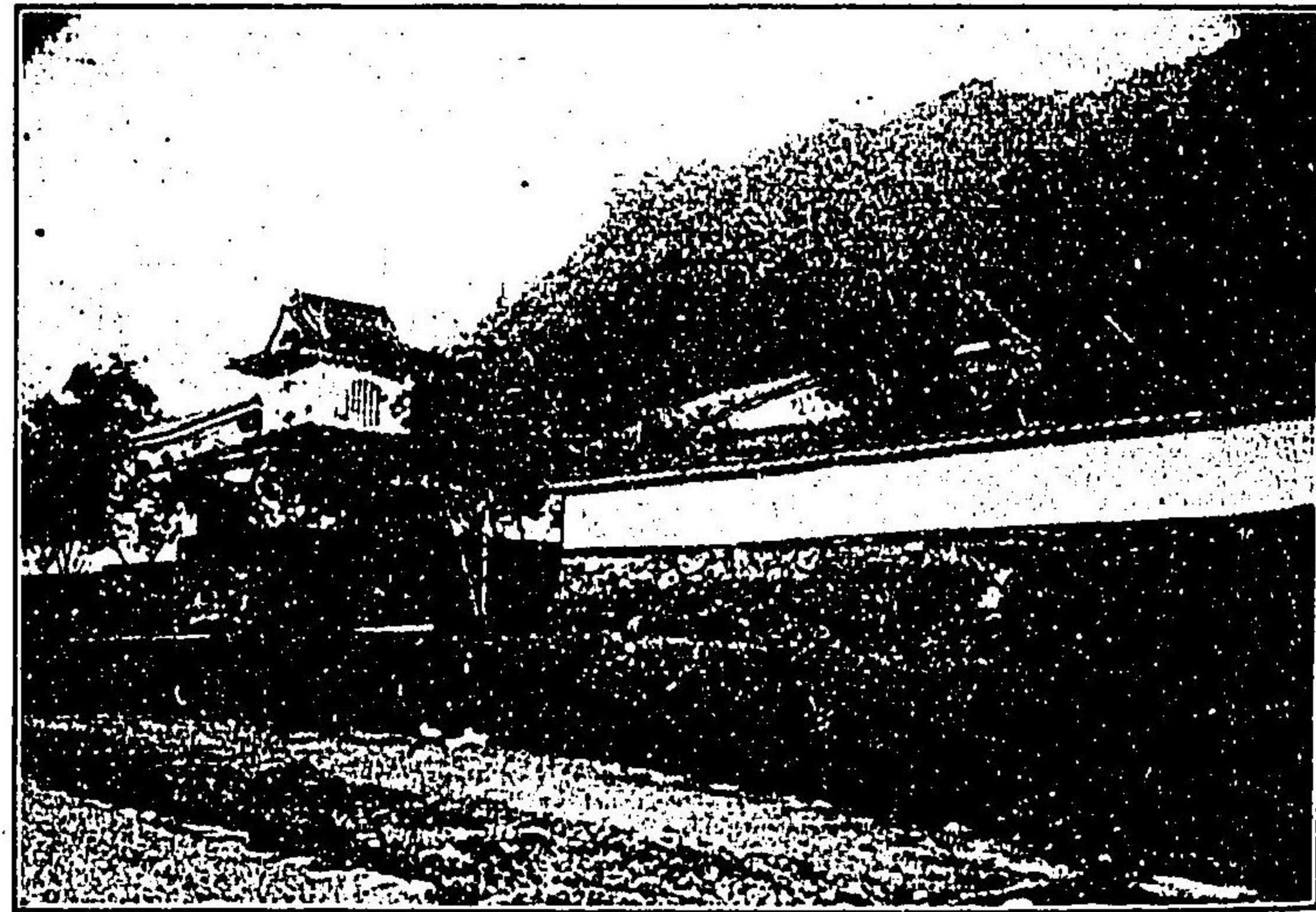
郷社式內諸杉神社



寺鏡宗山覺圓與中尚和庵淨



社神荷稻山城石出



寺王經山乘一



景之園山子有

目次

出石町略圖

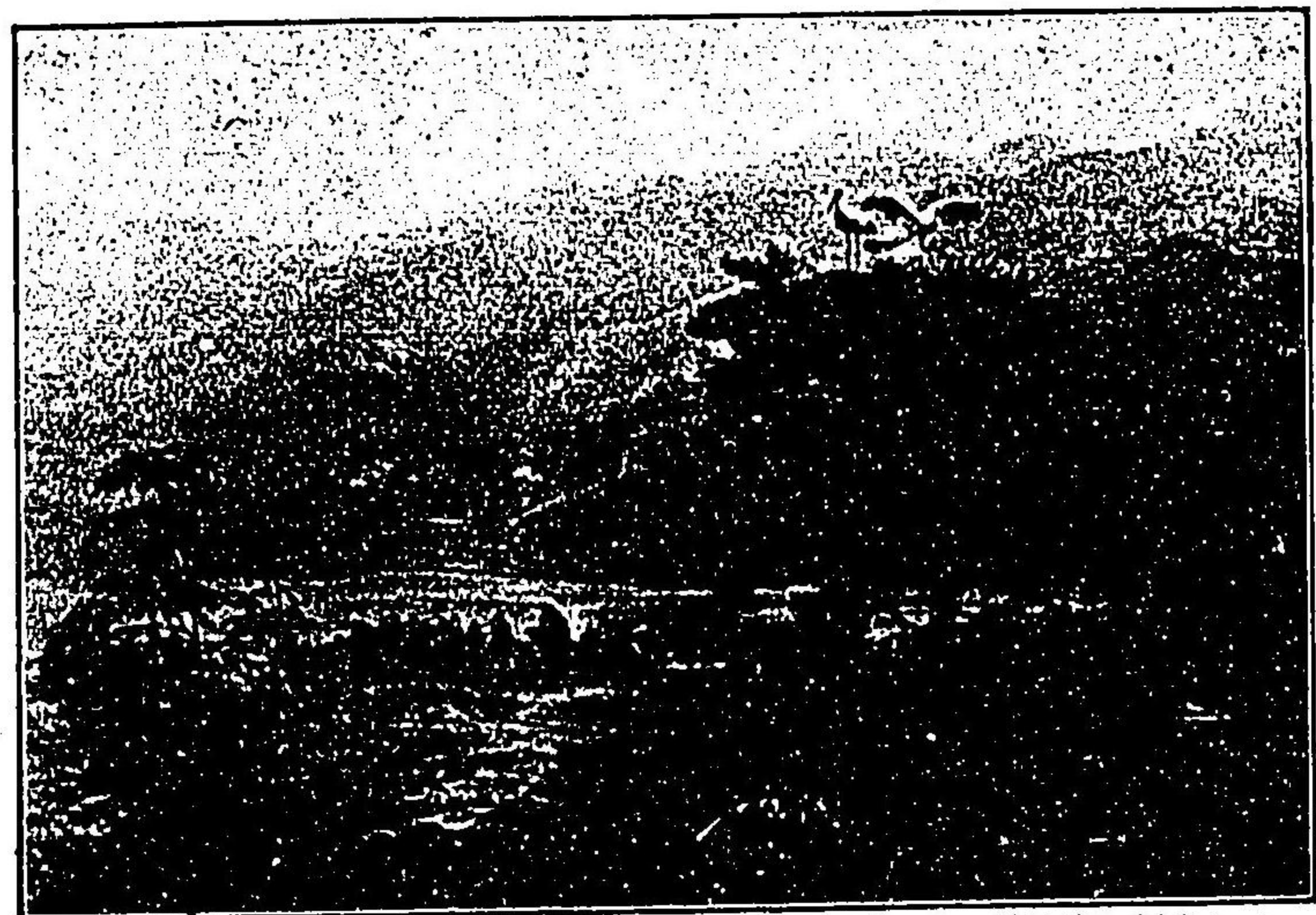


- 出石町之全景
- 入佐山之遺翠
- 勤王家之碑
- 甚兵衛松
- 子有山
- 仙石權兵衛秀久公祠堂圓覺院
- 國幣中社出石神社
- 郷社式内諸
- 郡役所附近之景
- 大橋附近之景
- 城山稻荷神社
- 有子山園之景
- 和尙中興圓覺山宗鏡寺
- 一乘山經王寺
- 出石鶴山鶴之巢籠其一其二
- 山石
- 子有山及出石城址
- 出石川
- 谷山川
- 入佐山
- 入佐原
- 敦土山
- 甚兵衛松
- 山の井
- 有子山園
- 百金山
- 櫻尾鶴山
- 國幣中社出石神社
- 郷社式内諸杉神社
- 村社式内磯部神社
- 村社伊福部神社
- 内町稻荷神社
- 楊枝谷稻荷神社
- 村社式内須義神社
- 澤菴和尙中興圓覺

海防 5.29  
 5.5  
 丙寅



(一其) 籠巢之鶴山鶴石出



(二其) 籠巢之鶴山鶴石出



目次

○出石町略圖

○寫眞

○出石町之全景

○入佐山之遺蹟

○勤王家之碑

○甚兵衛松

○子有山

○仙石權兵衛秀久公祠堂圓覺院

○國幣中社出石神社

○鄉社式內諸杉神社

○郡役所附近之景

○大橋附近之景

○城山稻荷神社

○有子山園之景

○和尙中興圓覺山宗鏡禪寺

○一乘山經王寺

○出石鶴山鶴之巢籠 其一 其二

○出石名所舊跡畧記

○出石 ○子有山及出石城址 ○出石川 ○谷山川 ○入佐山 ○入佐原 ○敦

土山 ○甚兵衛松 ○山の井 ○有子山園 ○百金山 ○櫻尾鶴山 ○國幣中

社出石神社 ○鄉社式內諸杉神社 ○村社式內磯部神社 ○村社伊福部神社

○內町稻荷神社 ○楊枝谷稻荷神社 ○村社式內須義神社 ○澤菴和尙中興圓覺

5. 5. 29



(一其) 籠巢之鶴山鶴石出



(二其) 籠巢之鶴山鶴石出

山宗鏡禪寺 ○澤養和尚燕染遺跡濟船山昌念寺 ○澤養和尚高祖秋庭伊賀守開基如來堂 ○舟橋山本高寺 ○豐臣秀吉制札所持祇山福成寺 ○前野但馬守黑印所持一乘山經王寺 ○梵唱山吉祥寺 ○仙石權兵衛秀久公祠堂圓覺院 ○子有地藏 ○豐臣大閣宿陣福成寺第一址 ○仙石實相公南山亭址 ○藩學弘道館跡 ○仙石左兵衛敷跡 ○木戸侯爵潛伏屋敷跡 ○多田彌太郎幽囚跡 ○劍工法城寺跡 ○祇山福成寺第二址 ○磁器製法場 ○出石町著名家廣告

出石名所舊蹟略記

○出石

出石の稱は日本書紀に出たり古語拾遺延喜式和名鈔太田文等皆同し而して古事記及延喜式神名帳は伊豆志に作り播磨風土記釋日本紀は伊津志に作り歌枕名寄は五師に作れり

出石の文字の日本書紀にあらわれたるは今を距ること一千九百三十八年前垂仁天皇三年春三月を初とす書紀の記する所は左の如し

三年春三月新羅國王于天日槍來歸す將來れる物は羽太玉一箇足高玉一箇鶺鴒カカ赤石玉一箇出石小刀一口出石梓一枝日ノ鏡一箇熊神籬一具併せて七物なり(中畧)則但馬國に藏めて常に神物とす日槍但馬出島の人太耳の女麻多鳥を娶て但馬諸助を生む(詳なることは下に出す)而して其出石を以て地名となせるは右出石小刀出石梓より來れるや又は

出島を畧して地名とせしや審ならず但馬考に出島の地は今の小坂村大字伊豆島の二村なりといふ現に東京の高輪芝の両地は古の竹芝の地を分ちし者なりといへは但馬考の説の誤らざることを信す  
出石の歌の歌集にあらはれたるは歌枕名寄を初めとす歌に

五師里

讀人しらす

但馬なるいつしの里のいつしかも戀しき人を見て慰さまん

○子有山及出石城址

山は谷山の山脈蜿々出石川谷山川の中間を走り其終点に至り突然隆起せる處をいふ山名氏の時新城を築き但馬全國を鎮す既にして山名氏豊臣氏に降る秀吉其弟秀長をして之に居らしむ秀長大和に移るに及び青木勘兵衛尉之を守る其後秀吉前野但馬守長泰を封す長泰秀次の事に係り自殺するに及び小出太和守吉政を封す小出氏嗣無くして絶す幕府松平伊賀守忠徳を封す忠徳上田に移るに及び仙石越前守政明之に代り傳て明治維新に

及び城廢す

○出石川

此川出石郡高橋村三國岳に發し出合に至り資母村より流出する溪水を合し舊氣多城崎兩郡に至り圓山川に合し北海に入る故事記に伊豆志川に作り伊豆志の神の女伊豆志登賣神の物語を記せり文長ければ之を略す

○谷山川

此川町の東北藏王溪より發し谷山町の東に至り楊枝溪の流を併せ川原町に至り出石川に合す風土記に源谷山に出つ多く佐氣年魚を出すといへり然れども今は水少くして香魚をも生することなし況して佐氣魚をや

○入佐山

出石町の北東にあり後撰集以下古歌多し

後撰集

源宗千朝臣

釋弓入佐の山の秋霧のあたることや色まさるらん

金葉集春部霞の心を讀る

大宰大貳長實

梓弓はるの氣色になりにけり入佐の山に霞たなひく

同戀部寄山戀といへることをよめる

大中臣公長朝臣

戀忙て思ひ入佐の山の端に出る月日のつもりぬるかな

千載集夏部

權大納言宗家

夕月夜入佐の山の本かくれにほのかになのる時鳥かな

新古今集

權中納言公經

春深く尋ね入佐の山の端にほの見し雲の色を殘れる

同夏部時鳥の心をよみ傳へける

前大政大臣

時鳥鳴て入佐の山の端は月ゆへよりも恨めしきかな

歌枕

鴨長明

梓弓はるさの櫻いかならんをして春雨ふらぬ日もなし

○入佐原

入佐山の西南の平野なり夫木集に

經家

梓弓はるの日くらし引つれて入佐の原に圓居をそする

○敦土山

入佐山入佐原の西南にあり室埴村荒木に屬す山名氏の時に岩ありしと思はる

高田森胤

梓弓入佐の山にむかひあればあつちの山と名つけそめけん

○甚兵衛松

舊城三九大手門櫓臺の上にあり今は辰鼓樓を其傍に設く枝葉扶疎として翠色翳鬱ふり蓋數百年以上のものなり

○山の井

舊城内山里門址の東邊にあり井深くして水清く寒冽氷の如し舊藩の時は

夏日にあたり藩主の魚類を圍ひたりし

○有子山園

伊木町にあり櫻井氏の有なり園勝景多し其内櫻老泉は柴栗山來遊の時蘇氏老人泉の故事によりて名つけし處にして尾藤二洲古賀精里二先生の銘頼春水龜井昭陽廣瀬淡窓同旭莊等の詩あり小竹運哲間坡魚樂池は篠崎小竹來遊の時名つけし處にして小竹の詩あり寄題數十篇に及ふ而して大窪詩佛の寄題の詩は最も之を稱揚せしものなり其轉結に欲知第一山陰勝先問櫻家有子山といへり

○百合金山

町の南方室埴村にあり豊臣氏乃時奉行伊藤石見守始て之を鑿ちしといふ  
出石藩の時一時采鑛せしが今は廢業せり

○櫻尾鶴山

町の西方室埴村字櫻尾にあり故來鶴ありて巢を營み來りしが維新以來銃

獵太た酷なりしかは一時全く中絶せり然るに明治二十七年日清交兵の時鶴あり來り巢ひ三十七年日露交兵の時也た還た來り巢ひ今に至りて間斷なしこれより官にて其地の銃獵を禁止せられしかは青鷺まで來り巢ひ漸次増加して鷺巢の數殆んど四十に及へり志水與三氏等鶴山保勝會を設け戰勝紀念鶴瑞を發行して 乙夜の觀覽に供し續て 各宮殿下に獻納の榮を得且つ廣く朝野の諸名家に贈呈し永く勝事を不朽に傳へんため記念の翰墨を求めしに鉅公大家の寄贈せられしもの壹千餘幅に及ひぬ  
今茲 御歌始の御題に松上鶴を用ひたまふ蓋右の祥瑞に基かせたまひしにや畏れ多くも

聖上 皇后

兩陛下御製御歌は渡邊宮内大臣閣下より御下附を蒙むりいと榮譽の事といふへし本年も亦松上に鶴巢を見るに及び鐵道院に於ても大に汽車の便を與へられたり爲めに遠近の來觀者踵を接するの盛況を呈せり

○國幣中社式内出石神社

町の北方神美村字宮内にあり延喜式に伊豆志坐神社八座竝名神大といへり古事記の註に入座は新羅王子天日槍の齋し來れる八種の神器を祭れりといへり但馬考には延喜式に入座とあるはみな日槍の子孫を崇め祭れるなりと當社の人の傳ふること實しきことなれとせるせり

天日槍は新羅王子にして其事蹟日本書紀古事記古語拾遺先代舊事大成經等に精し今書紀古事記を抄譯して左に掲ぐ

日本書紀曰垂仁天皇三年春三月新羅王子天日槍來歸焉將來物は羽大玉一箇足高玉一箇鵜鹿鹿ノ赤石玉一箇出石小刀一口出石杵一枝日鏡一面熊野籠一具併て七物あり則但馬國に藏て常に神の物とするなり一ニ云初天日槍艇に乗て播磨國に泊りて宍粟邑にあり時に天皇三輪君カ祖大友主と倭直の祖長尾市とを播磨に遣はして天日槍に問して曰汝は誰人そ凡何の國の人そ天日槍對へて曰僕は新羅國主の子なり然とも日本國

に聖の皇ますと聞て己か國を以て弟知古に授て化歸り仍て貢獻物は葉細珠足高珠鵜鹿鹿赤石珠出石刀子出石槍日鏡熊神籠膽狹淺大刀竝に入物あり仍て天日槍に詔して曰播磨國出淺邑淡路島の宍粟邑(註案するに播磨國宍粟邑淡路國出淺の誤ならん)この二邑は汝任意に居れど時に天日槍啓して曰臣住ん處はもし天恩を垂れて臣が心に願はしき地を聽したまはし臣親ら諸國を歷視て則臣の心に合へるを給はらんとをもふ乃ちこれを聽したまふ是に於て天日槍菟道河より浜りて北し近江國吾名邑に入て暫く住むまゝ更に近江より若狹國を経て西但馬國に到て住所を定む是を以て近江國鏡谷陶人は天日槍の從人なり故に天日槍但馬出島の人大耳の女麻多鳥を娶て但馬諸助をうむ諸助但馬日槍杵をうむ日槍杵清彦をうむ清彦田道間守をうむ

故事記曰昔新羅國王之子あり名は天日矛といふ此人參渡來なりまふくるゆへは新羅國に一つの沼あり名は阿具奴摩といふこの沼の邊に一り

一〇  
の賤女畫寢こ、に口糶虹の如く其陰上を指すまた一どりの賤人あり其  
狀を異しと思ひ恒に其女人の行を伺ふ故にこの女人其畫寢の時より姪  
身て赤玉をうひかくて其伺ふ所の賤夫其玉を乞ひ取て恒に褻て腰につ  
く此人田を山谷の間に營む故に耕人等の飲食を一つ牛に負せて山谷の  
中にいり其國王の子天之日矛にわひあふかくて其人に問て曰何ぞ汝飲  
食を牛に負せて山谷に入る汝必是牛を殺し食ならんと則其人を捕へさ  
さに獄囚に入んとす其人答曰吾牛を殺さんとあらず唯田つくる人の  
食を送るのみと然とも猶赦さすかくて其腰の玉を解て其國王の子に幣  
ふ故に其賤夫を赦し其玉を將來て床邊にをくすなはち羊脚嬬子となる  
仍て婚して嫡妻とすかくて其嬬子常に種々の珍味を設て恒に其夫に食  
す故に其國王の子心奮りて妻を嘗る其女人のいふ凡て吾は汝の妻たる  
へきの女にあらす將に吾祖の國に行んと即竊に小船にのり遁れ渡來り  
難波に留る（此は難波の比賣恭社に座す阿加流比賣神といふものなり）是に於て

天之日矛其妻の遁しを聞て乃追渡來まきに難波に到らんとするの間其  
渡の神塞ひて以てぬれす故に更に還て多遲摩國に泊り即其國に留りて  
多遲摩の俟尾の女名は前津見を娶て子多遲摩母呂須玖を生むこの子多  
遲摩斐泥此子多遲摩比那良岐此子多遲摩毛理次に多遲摩多訶次に清日  
子柱此清日子當摩之咩妻を娶て子酸鹿之諸男をうむ次妹菅窺止由良度  
美故に上ニ云多遲摩比多訶其姪由良度美を娶て子葛城之高額比賣命を  
うむ（此は息長帶比賣命の御祖也）故に其天之日矛持來る物は玉津寶と云珠  
二貫又振浪比禮切浪比禮振風比禮切風比禮又與津鏡邊津鏡併て八種な  
り（此は伊豆志の八前大神也）  
但馬太田文に當國一宮出石大社百四十一町六反六十歩長月御祭田七十  
一町二百五十六歩講經修理田等廿七町九反大引磔竝御神樂田以下料十  
一町一反大といふ當時の盛なりしこと思ひやらる  
新拾遺和歌集物名詞書に

但馬出石宮と云社にてなおりそと云くさを

重之

千早振いつしの宮の神の駒人なのりをやたりもそする

社の古文書古器物は社藏の外同村神床氏も亦た之を傳ふ古色蒼然考古の資に供すべきもの多し

○郷社式内諸杉神社

町の南方内町にあり天日槍の子諸助を祭る延喜式出石郡諸杉神社といへる是なり

諸助のことは書紀に天日槍但馬出島の人太耳の女麻多鳥を娶りて但馬諸助を生むといふに過ぎず然れども故事紀を案する諸助は神功皇后の御母葛城高額比賣命の高祖なり而して高額比賣命の社は城崎郡(舊氣多郡)國府村字竹貫村にあり

○村社式内磯部神社

町の東方谷山町にあり延喜式出石郡石部神社といへる是なり

○村社伊福部神社

町の西南室埴村にあり但馬考及井上觀の著せる但馬式社考竝に延喜式にいへる大生部兵主神社なるもの蓋是ならんといへり

○内町稻荷神社

町の南方内町舊城址の上により二月初午及第二第三の午日には祭祀極めて賑しく舊藩以來遠近より來り詣るもの數萬人に及ぶ

○楊枝谷稻荷神社

町の東北楊枝谷にあり近來信者極めて多く參拜者四方より群集す

○村社式内須義神社

町の西南室埴村字荒木敦土山の麓にあり延喜式に出石郡須義神社といへるはこれなり

○澤菴和尚中興圓覺山宗鏡禪寺



町の東北にあり宗鏡寺はもと山名氏世々の菩提寺にして神美村字宮内にありしか山名氏滅ひて荒廢せり澤庵和尚小出太和守吉英にすゝめて之を再興せり時に元和二年なり元和六年和尚四十八歳にして此寺に歸住し住すること九年五十六歳(寛永五年)の時大徳寺出世のことにつき寺を出て遂に川羽に謫せられ六十二歳にして(寛永十一年)また當寺に歸る翌年召されて江戸に詣り六十四歳にして重ねて當寺に歸る六十五歳の時重ねて召されて江戸に抵る將軍東海寺を建て之に住せしむ然れども和尚は猶當寺を戀ひ六十六歳の時も七十二歳の時も城崎温泉入浴を名として當寺に來り七十三歳にして遂に江戸に示寂す事は東海和尚紀年録に詳なり

寺内名所舊蹟極て多し其重なるもの左の如し  
開山堂 堂は元和二年築く所開山大道一以禪師及小出雲龍小出雪江二公の像あり

投淵軒址 軒は澤庵和尚の作せし所なり紀年録に元和六年師四十八歳但

州に至り扉を宗鏡寺の後山に纏して屏處し扁して投淵軒といふ衣盂の外只一簞兒有り手自ら米を炊きて粥を成し以て晨夕を給せり元和八年烏丸光煥郷和尚を當軒に訪ふ倭歌唐詩の唱和あり寛永元年彈正尹高松好仁親王但山を攀ち當軒を扣く和尚堅く閉て謁せず親王空しく歸洛したまひしむねを記せり

心字池 投淵軒の前にあり傳へ云ふ池形心字に似たり故に名つく

金粟菴址 金粟菴は仙石實相公の建てたまひし茶室なり今や既に廢し唯其遺址を存す

對來閣 閣もと有子山園にあり寛政八年櫻井東亭執政仙石内藏允と謀りて搆へしに文政十年故ありて櫻井家より宗鏡寺に寄附せしなり當時其來日岳に對するを以て對來と稱す柴栗山來遊の時其扁を書せしに其後長島老公肥後大城齋梁もまた其扁を書せり

小出法雲公墓

仙石實相公墓

仙石天真公墓

塔頭は願成寺あり澤菴和尚願成寺の庭花の歌あり群搜集に出つ曰く

曇る日も紅櫻てる影は枝にも葉にもあせるいろかな

願成寺々中左の三墳あり

出石太夫乗竹九郎右衛門墓

池口琴水菽水兩翁墓

同上勝福寺址に左の諸墳あり

小山公子帶刀君墓

澤菴和尚父

秋庭能登守綱典  
雲峯以閑居士

母 牧田氏  
妙清

及兄弟墓

○澤菴和尚菴染遺蹟濟船山昌念寺

町の北東下魚屋町にあり淨土宗なり紀念錄に天正十年師十歳邑の唱念寺

に入りて蓮社の徒となる住持衆譽上人命して騶鳥の列に就かしむといへ  
る是なり澤菴和尚唱念寺の花太守來臨の歌に

限りありて彌生の空はくれぬとも春いぬへくも花散ぬ世に  
盛りなる櫻か本はまだしらす花ちる里に春はぬぬめり

○澤菴和尚高祖秋庭伊賀守開基如來堂

町の北方如來寺中にあり伊賀守信州善光寺に至り佛工の手を借り雕刻し  
て持ち歸り建立せし所なり天祐禪師の記文あり但馬考に出つ

○舟橋山本高寺

町の北東下魚屋町にあり法華宗なり寺内にもと塔頭あり尊重院といふ尊  
重院はしめ成光房と稱す澤菴の群搜集にさる座敷にて風雅のありしにあ  
たりの家やねふくとして人数々集りてわめささわさけりあなかしましなど  
いひてもささいれかたし所は法華寺なり房を成光房と開てはいかに  
わめくなせいへともさかぬ法華宗じやうこわ房のやねをふくとして

寺中ある所の舊蹟左の如し

出石大老仙石三次墓

墓隅に仙石左京の招魂墓あり

河野瀨兵衛墓及旌忠碑

瀨兵衛は仙石騷動の時殺されし烈士にして其名一世に高じさて同人の墓と元兎仙石左京の招魂墓と同しく一寺の内にあり偶然といへども亦奇といふべし

○豊臣秀吉制札所持祇山福成寺

町の南西柳町にあり真宗なり寺もと城崎郡福成寺村にあり其後故ありて出石町の西に移る豊臣秀吉の山名氏を攻るとき其宿陣となし山て制札をあたへ除地をたまひしといふ但其後弘原に移り更に余の地に移りしなり

○前野但馬守黒印所持一乗山經王寺

町の東方谷山町にあり法華宗なり前野氏課役免除の黒印及深草元政上人

の撰銘せる洪鐘あり惜むへし皆同祿の災にかゝれり

寺中の舊蹟左の如し

仙石大慈公墓

出石大夫仙石内藏允墓

同土岐東市墓

出石川人青木小兵衛墓

其詩日本詩選ニ出ツ

贈從四位多田彌太郎墓

○梵唱山吉祥寺

町の東方谷山町にあり禪宗にして中本山なり澤菴和尚の警搜集に吉祥寺の住持より嵯峨味噌といふものを給はる返事乃はししいとへとてかゝる浮世のさがみそをなめあみだぶと教ける人寺中にある舊蹟左の如し

出石大夫荒木頼母恒徳墓

堀田省軒翁墓

○仙石權兵衛尉秀久公祠堂圓覺院

内町舊城址にあり仙石家の始祖秀久公を祭る公の事跡は世人の偏く知る所なるか故に之を省く

○子有地藏

子有山の山腹にあり之を念すれば必ず胎むといふ參拜者極て多し

○豊臣太閤宿陣福成寺第一址

町の西方にありもと福成寺の寺址なり豊臣秀吉出石城を攻るとき宿陣をなせし所なりといふ

○仙石實相公南山亭址

内町にあり今の小学校敷地の東南なり公の自撰せられし亭記あり趙陶齋出石に來りしとき之を書す今や即ち無し惜むへし

○藩學弘道齋跡

町の南方伊木町にあり安永三年仙石實相公の草創にして大慈公之を増築し天眞公に至り聖廟を作らせたまひぬ

弘道館の扁は大慈公の書する所なり廢書數萬卷に及ぶ惜むらくは廢藩後館と共に燒失せり

○仙石左京屋敷跡

内町にあり今の目下部榮の家より以北舊城池までの地所なり

○木戸侯爵潜伏屋敷跡

侯爵の出石に來りしや初は菅田町並屋重兵衛の宅に潛み中途同町廣戸喜七の宅に潛み其後菅田町の家を借りられき菅田町の家は南側の中央にあり東角より五軒目にて八木直右衛門の西隣なりき

○多田彌太郎幽囚跡

町の東北東條町(舊宗鏡寺町)庚申堂の崖下にして今の太橋氏隱栖の北なり

○劍工法城寺跡

但馬の劔工法城寺に前後あり前法城寺國光以下は貞宗の弟子にて世々朝  
來郡舊岡田村の地に住し(村中今に字鍛冶垣と稱する所あり)後法城寺は出石町  
の西方室埴村字鍛冶屋村に住せり今の室埴村役場の近傍にて舊玉泉亭の  
跡なりしならん後法城寺は國光國吉國正といふ後移りて江戸に住す

○祇山福成寺第二址

町の南西弘原にあり巨剎なりしに今や田結庄町に移れり移轉前は老樹あ  
り泉水あり太守なども參られしことあるにや小出法雲公題福成寺庭前落  
花の詩あり曰く

愛花殘恨落花前流水傳風小室邊昨夜恂心春雨曉不思天霽樂遊筵

寺中舊跡左の如し

出石大夫河合鼎墓

全倉品老之助墓

櫻井舟山翁以下世々墓

○磁器製造場

出石の磁器は仙石家の時より始めり町の東西に默在す今日營業する者の  
中其重なるもの、所在地及姓名左の如し

谷	山	町	武	田	角	藏
全	裏	町	振	角	源	治
全	室	埴	宮	崎	久	太郎
全	村	福	中	井	政	吉
全	住		上	田	直	藏

出石名所舊蹟略記畢

明治四十五年五月二十日印刷  
明治四十五年五月二十六日發行

(製復許不)

錢五拾價定

記略跡舊所名石出

發行兼  
編輯人  
倉品  
昭夫

印刷人  
倉品  
榮

印刷所  
倉品  
印刷所

發行所  
淺田  
書籍店

兵庫縣出石郡出石町ノ内本町七十六番屋敷

電話五〇番

明治四十五年五月二十日印刷  
明治四十五年五月二十六日發行

(製復許不)

錢五拾價定  
記聲跡舊所名石出

發行所 倉品昭夫

印刷人 倉品榮

印刷所 倉品印刷所

發行所 淺田書齋店

電話五〇番

兵庫縣出石郡出石町ノ門本町七番

兵庫縣出石郡出石町ノ門本町七番

兵庫縣出石郡出石町ノ門本町七番

創立明治十一年十一月  
資本金參拾萬圓



株式會社

五十五銀行

電話五十五番  
振替貯金大阪五六一七

株式會社

# 出石貯蓄銀行

電話 六番  
振替貯金大阪二二〇三〇番

三

生糸縮緬  
繭屑物 委託問屋

出石柳町

# 奈福富生絲商店

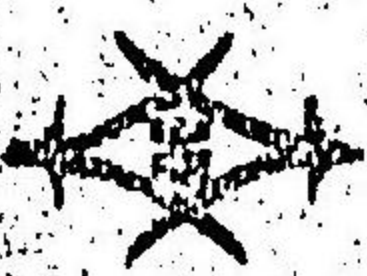
振替口座大阪西四八八番  
電話 六番 一五番

三



生絲委托問屋

魚屋町



松本生絲商店

電話(マツト)  
電話長二番

漆器類卸小賣

松本漆器部

木店ハ品ヲ撰ミ價格亦廉ナリ

營業品目

紙類 表具物 帳簿 書籍

新聞 雜誌 筆墨及房具類

ものゝふ筆

鶴山筆

鶴神印掃立紙

鶴山及出石繪葉書

發行元

坂本書店

電話四十一番

木店ハ品ヲ撰ミ價格亦廉ナリ

營業品目

紙類 表具物 帳簿 書籍

新聞 雜誌 筆墨文具類

ものふ筆

鶴山筆

鶴神印掃立紙

鶴山及出石繪葉書

發行元

坂本書店

電話四十一番

純良藥品販賣  
處方箋調劑所

出石柳町  
藥劑師 日下部良三郎

電話 三〇

八木町

藥劑師 日下部又三郎

電話 一四〇

三〇

岸松堂

和漢洋藥  
醫療器械 商

出石柳町

◎ 竹中覺治郎

電話 十番  
振替大阪三四五二

寫眞

鶴山寫眞  
畫はがき各種

出石八木町

石田寫眞館

三二

吳服太物商  
荒物肥料商

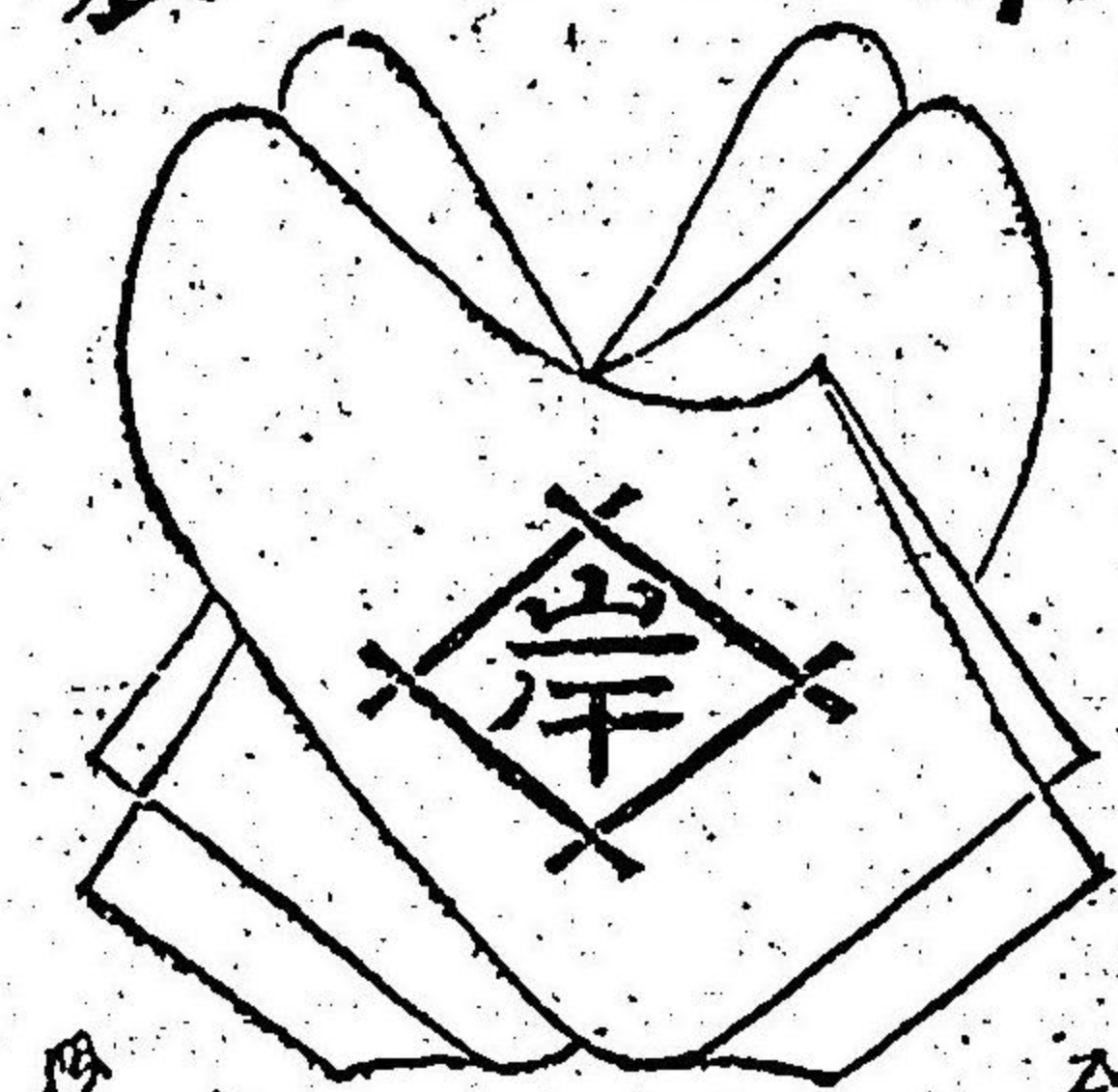
大日本人造肥  
料株式會社 特約店

田結庄町

たわらや吳服店

電話 二八番  
振替口座大阪五九〇六番

岸田屋足袋



全 國 賞 牌 業 受 博 覽 會

出石町之内田結庄町

岸田屋本店

電話 四番

吳服太物商  
龍物龍料商

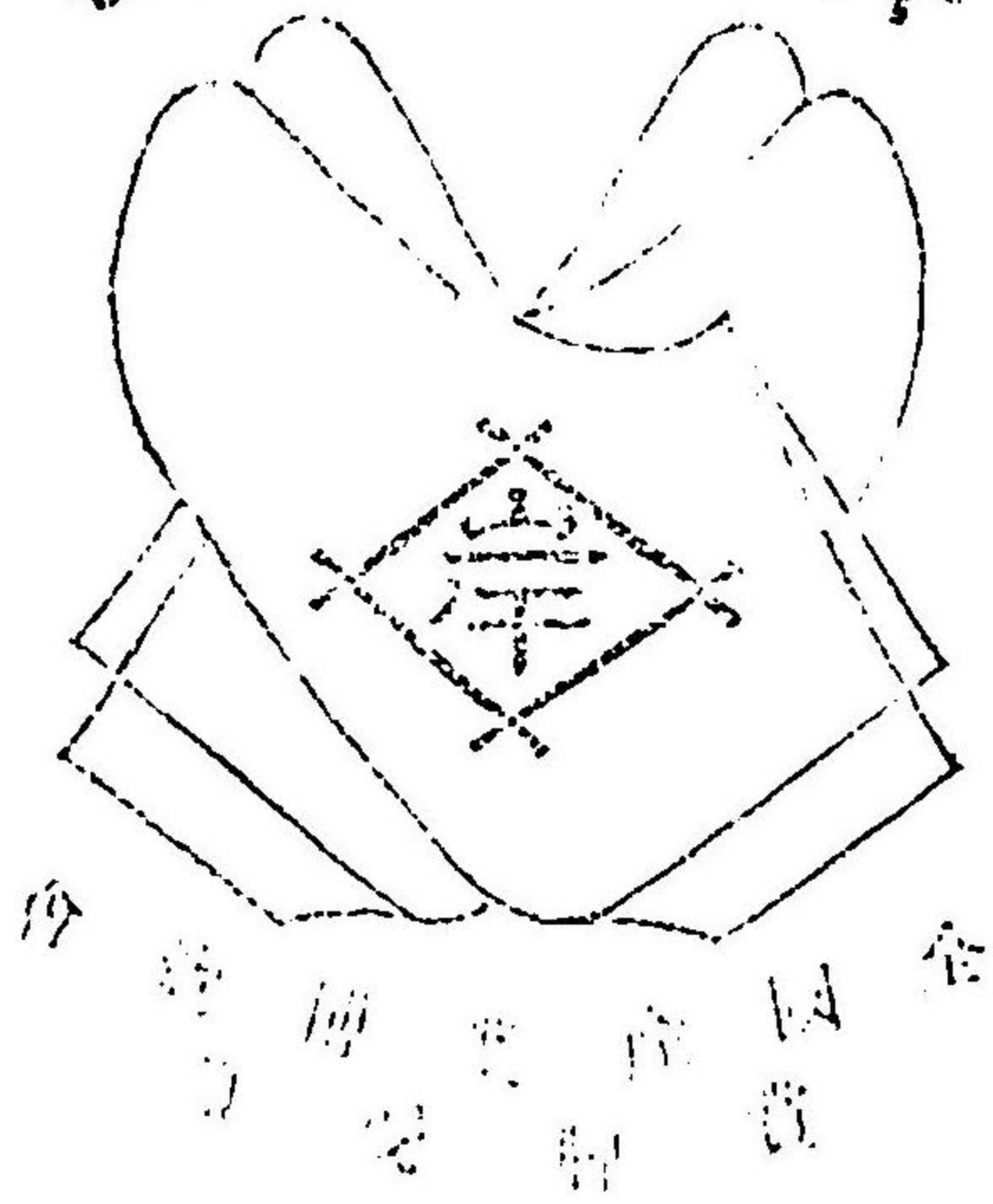
大日本人造肥  
料株式會社 特約店

田結庄町

たわらや吳服店

電話 二八五  
振替口座大阪五九〇カ番

泉屋川岸



田結庄町之内田結庄町

泉屋川岸

電話 四番

營業概要

吳服 太物 洋反物 禮儀小袖 嫁入手道具  
洋傘 各國帽子 革盤 福助印(福)塚足袋

田結庄町之内田結庄町

志水吳服店

電話 一三番  
振替口座大阪一四〇五

品質を吟味し薄利主義にて時々成行に随ひ非常廉價に販賣すへき事を本領と致候  
何品を問はせ確實なる正札を附し壹厘も直引せざれば直ぎり引きの御面倒無之候  
御註文の際又は如何なる場合にて直段に區別無之が故に買ひ被りの憂ひ無之候  
染物及び仕立物の御誂は殊に意を用ひ最も迅速に調達可仕候間何卒御用命奉希候

陶器窯元  
各國陶器卸商

田結庄町

久宮崎久太郎

電話 一 番  
振替貯金東京八九〇三



實用

新案

國産柳行李柳籠製造元  
擴柳商會販賣部

但馬出石青田町

柳好袋 發賣元  
小山曉造

振替口座大阪二五〇五九番

全青田町字いもと町

發賣所  
岡本商店

柳好袋ノ特色雨中ノ旅行ニモ袋内品汚  
浸ノ憂ナシ柳籠台ニ完全ナル防水施行  
セル優美ノ布袋ヲ好妙ニ取付タル高尚  
堅牢實用向旅行用必携品タリ  
郵券封入ニ限リ華麗ナル營業案内ヲ呈送ス

荒物 養蠶具 太物  
麻類 真綿 足袋 綿商  
生絲屑物 委托 仲立業

正直ヲ旨トシテ御取扱可申候

出石八木町

新 芦田初藏

振替口座大阪一五八七五  
電話 六十二番

第三回四回五回  
内國勸業博覽會

褒賞受領

白磁器 盈進堂  
製造憲元

出石町

川北彦太

諸販印御用  
會品印御所

第三回四回五回  
内國勸業博覽會

褒賞受領

自磁器  
製造窯元 盈進堂

出石町

川北彦太

諸版印刷御用  
倉品印刷所



# 内外金物商

田結庄町

今中村 藤太郎

電話二〇番  
電界(ナカ)

國產出石燒  
多木肥料 卸小賣店

出石八木町

武田喜平治

電話八番  
振替口座東京八八五六

339  
49

柳行李並ニ  
柳細工製造 卸商

出石八木町

今片芝治良藏

電略(カジ)

全本町

洗心湯前工場

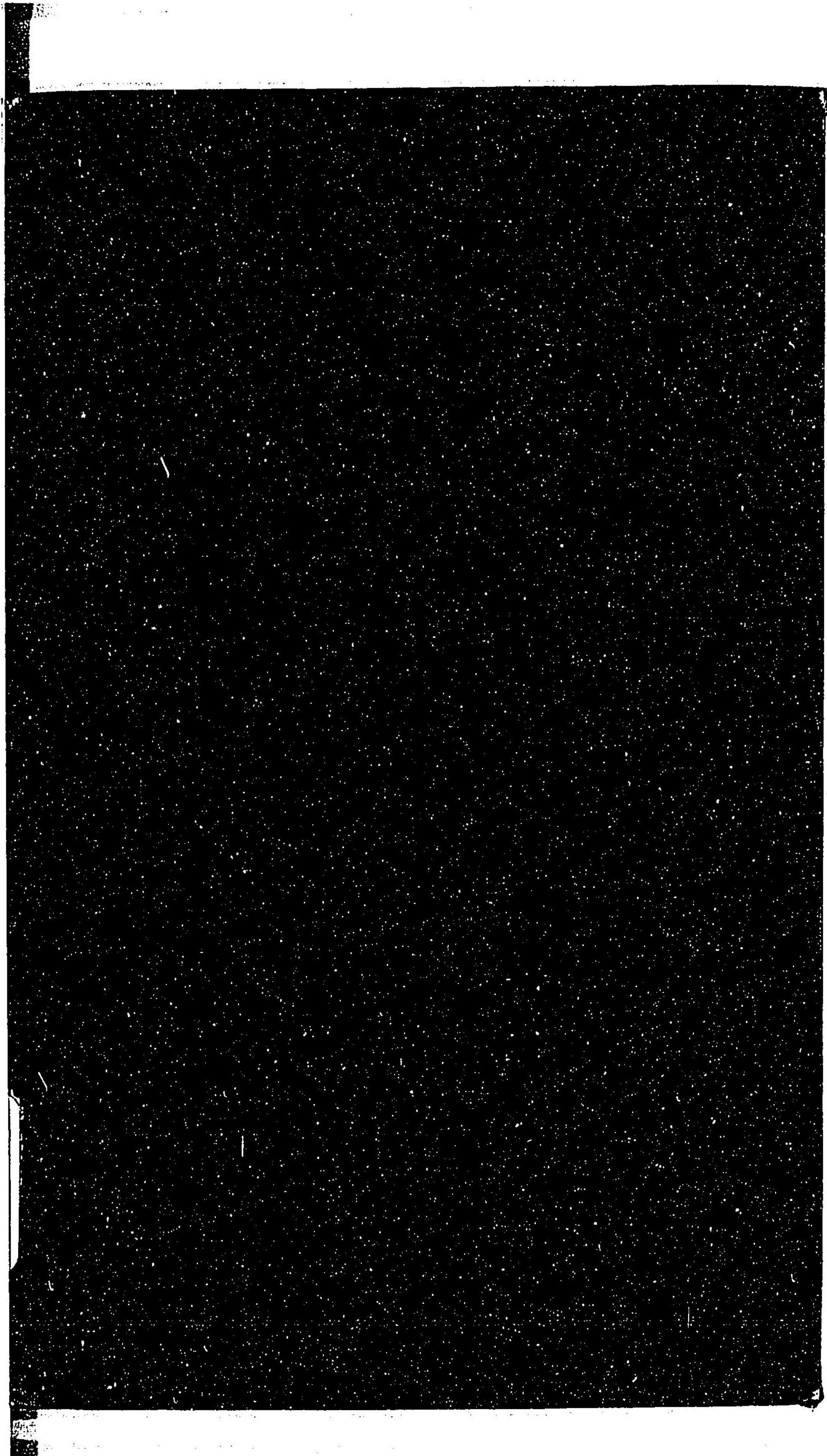
御旅館  
御料理

但馬出石

五井吉得

電話十八番

339  
74



339  
79

025745-000-7

339-79

出石名所旧跡略記

倉品 昭夫/編

M45

ADC-3280



